

2) 普門寺 (富田町4丁目)

釈迦如来と十一面千手観音菩薩

隣接する三輪神社はもと当寺の鎮守社で、臨濟宗山号慈雲山、本尊釈迦如来明徳元年(1390)僧説巖の草創で、鎌倉建長寺末寺で、出家した細川晴元が入寺したことで良く知られています。晴元は永禄4年(1561)5月、三好長慶に近江朽木谷に潜居していたのを迎えられました。

富田に普門寺城があった

当時の普門寺城は、三輪神社や本照寺周辺も城郭の一部だったようで、三千余騎が守護し「10の伽羅が並び、二重の堀がめぐらされ、6千坪」と伝えられています。

戦国時代の公家、山科言継(1507~1579年)の日記によると、富田は將軍の御座所として機能し、多くの奉公衆や側近を構えていたのです。

その後の足利義榮は、織田信長に追われて7ヶ月の短命政権で病没。悲劇の將軍といわれ、日本の歴史上、本拠地に入ることなく終わった征夷大將軍は、義榮と江戸幕府の徳川慶喜の二人といわれています。

「普門寺は御座所の役を果たしました。日本広しといえども征夷大將軍に任じられた場所が、京都でも江戸でもないのは『富田のみ』です。

晴元は永禄6年3月1日当寺で病没し、境内に晴元の墓と伝えられる宝篋印塔があります。

1617年(元和3年)に龍溪和尚が当寺に入り、約40年かけて方丈など、諸堂を建立し、当時は、隆盛を誇ったと言われています。1655年(明暦元年)には、龍溪が明の高僧隠元禪師を迎え入れ、1661年(寛文元年)山城宇治黄檗山万福寺に普山するまで留錫しました。

龍溪 同年慶端寺に移り、寺は以後龍安寺の輪番所となりました。1873年(明治6年)から住持が置かれました、その後無住の期間が続きました。方丈の西北側にある「池泉式枯山水の庭園」は江戸時代初期、庭作りの名人、玉淵の作と伝えられ、観音補陀落山の庭といわれています。

昭和の始めに専任住職がこられ、その後再興されました。昭和52年には方丈附棟札が国の重要文化財に指定されました。

昭和56年には、庭園が国の名勝の指定を受けています。名勝の庭園は江戸時代初期の枯山水庭(かれさんすいてい)で、玉淵(ぎょくえん)の作庭と伝えられています。また境内には、戒名「龍昇院殿前右京兆心月清公大居士」と刻まれ、細川晴元の墓と言われている宝篋印塔が建っています。

2008年(平成20年)には方丈の柿葺屋根のふき替え工事や山門の補修工事が行われました。

